

第2回 木曾川水系流域委員会

平成19年4月27日

【浅野調査官】 それでは、3日間ほんとうにどうもお疲れさまでした。初日はどちらかという利水の話があって、2日目、きのうは流域を含めて、土地利用を含めて治水の話がメインの現場だったということで、今日は、午前中はその延長線上で、土地利用問題を含めて治水というのは全体を考えなきゃいけないという話があって、後半は木曾三川の下流部、特に今日は高潮対策の話がありましたが、いろんな構造物があってなかなか進まない、それから地盤沈下の問題、そういう話がありました。

今日のところも含めて、3日間あわせてでもいいですから、今までのご意見とかご感想とかご質問があればまた受けたいと思います。あと、この後少し見学されるというところもありますので、30分ぐらいをめでに議論していただければありがたいなというふうに思います。

では、進行は松尾副委員長にお願いして。昨日、おとといは順番に感想を言っていたいて、それで議論していましたが。よろしくお願いたします。

【松尾副委員長】 辻本委員長が途中で帰られましたので、ピンチヒッターで進行役を務めさせていただきます。

今ごあいさつにもありましたように、今日の現場見学と、私は今日だけだったんですけども、3日間見ていただいた委員の方もおられると思いますので、全体を通しての感想とございますかご意見をちょうだいできればと思いますが。やっぱり順番にお一人ずつまずは少しお話を伺っていききたいと思います。藤田委員から。

【藤田委員】 今日は大垣市をスタートで、それからずっと南のほう、低地といいながら牧田川のように非常に急なところから、突然300分の1から3000分の1というお話でしたけれども、急激に河床勾配が変わる、そういったところ、主に養老の山の横を流れていく揖斐川沿いのところを、なかなか私も来るチャンスがなくて、非常にいろんなところを見せていただいてありがとうございました。

やはり海津橋の下の特殊堤のところ非常に印象深かったとございますが、養老から流れ出した土砂の上に立地したところのために非常に川幅も狭くなっているところで、こういったところもあって非常に苦労されているんだなということと、それから、やはり下のほ

うはどうしても高潮、非常に高潮堤防の延長が長いところですね。地盤のほうも必ずしもいいところではないというところをどうやって守るかというのが非常に大きな課題になっているなということも、よく見せていただいてわかったところです。ぶっちゃけていくと、なかなか予算等も限られていると、厳しいという状況もおっしゃっていたとおりだと思いますし、その中で大事なところからちゃんとやっていかないといけないんだということも感じたところです。

感想は今日のところです。

【松尾副委員長】 ありがとうございます。

重網委員、お願いします。

【重網委員】 今日、この木曾川下流を拝見して、私は伊勢湾台風の経験者ですから特に思うんですけど、やはり何かこのあたりは海の上に浮いているという感じですね。だから、もっと何か早く手当てできないかなと思うのです。しかし、これはなかなか難しい話です。ずっと見ていまして、伊勢湾台風の水位標ってあまりないですな、ここ。昔はいっぱいあったんだけど、今はほとんどないですな。

【関沢木曾下所長】 あります。この前にもありますし、長島町内にも幾つかありますよ。ほかのところにもある。ちょっと今日は前を通らなかつたりしたのでご案内しなかつたんですけど、あります。

【重網委員】 そうですか。僕は堤防の上だけ走ったから見落としたのですが、やはり住民の方々に、自分の住んでいるところの怖さをみんなに知ってもらわないと、今日お見えになった委員の先生で長島の先生なんかは一番よくご存じなんですけど、そういうところが何か私は必要じゃないかなと。工事を大いに進めていただくのはいいんですけど、その位置を自分で確認しないと、新しい住民の方はそれはなかなかわからないと思うんですけど。これは何も地方自治体だけの話じゃなくて、国土交通省も大いにその点は喚起してやらないと大変なことになっちゃうんじゃないかなというのが1つの感想です。

それから、もう一つは、これはお願いなんですけど、今日の新聞のトップニュースは、JR東海が東京 名古屋間をいわゆるリニアモーターカーを走らせるというのが載っていますね。2025年目標と書いてありますね。我々の流域計画もそのころを目標にしてこれからつくると思うんですけど、特に、名古屋までですとちょうど長さは300キロぐらいですけど、リニアは東京 - 名古屋間を40分で走るんですね。時速500キロだそうですけど。多分、東濃のどこかに駅が1つできますよ。これは政治的な意味で、やはり岐阜

県に1つつくらはなきゃいかんわけですね。名古屋から7分だそうですから、そのときにあの辺とはすごい住宅地になるし、いろんな企業が出てくるかわかりません。そのときに一体水をどうするかということもやはり考えていかないといかんのじゃないかと思うわけですね。

庄内川という川がありますけど、あれは我々の流域委員会の場違いの話ですけど、やはり木曾川をどうするかということも今から考えていかないと、細見さんがいつもおっしゃるように、グローバルに考えていかないといけない時代に来たものですから、個々の話でもそれは大切なんですけど、2025年というのはあと18年ぐらいしかありませんから、非常に遠い将来の話じゃないわけですね。我々の流域計画も、それは1つの例ですけど、今度利水の話は5月21日はやるそうですけど、やはりその辺までを視野に入れながら書くことは別としまして と思いますね。

感想はそれだけです。

【松尾副委員長】 じゃ、私から。

今日は特殊堤のところは初めてだったんですが、それ以外のところはいろんな機会に今まで一度以上、何度か見せていただいたんです。今回はずーっと続きで見せていただくと、木曾三川といいますか、今日は揖斐川、長良川中心だったんですが、この地域の特徴というのが改めて何かわかったような気がいたします。今まではどっちかというポイントポイントでいろんな機会に行っていたので、ずっと見て回るといことはなかったものですから、改めてそういうふうな感じがいたしました。

今日、牧田川、杭瀬川のあたりのところ、それからその前のところの、本川と支川、それから内水排除地区、このあたりをいかに整合性を保って、安全度のバランスを保ってやっていくかというのはやっぱり非常に大きな課題なのかなというふうに1つ思った次第でございます。

それと、重網委員も言われましたけど、今まであまりああいう慰霊碑だとか記念碑とかに注意を払わなかったんですが、今日幾つか教えていただいて、随分あるんだなというふうに思いました。ただ、それがやはり知っている方は知っているんですが、なかなか一般人といいますか、わからないようなところにひっそりとたたずんでいる。やはりこういったものは人目につくといいですか、過去の水害の歴史、治水の歴史をきちっと伝えていくというのは非常に重要なことだと思うんですね。特に、この地域はほんとうに地盤高が低い低平地で、今日もずっと見せていただきましたけど、堤防の上を走っていると、ほとん

ど2階以上のところを走っているわけですので、そういう面では、こういった過去の洪水との闘いの歴史みたいなものはきちっとやはり伝えていく、また、それを常に思い出すようなことというのは非常に重要だなというふうに改めて思った次第でございます。

以上でございます。

平野委員。

【平野委員】 この3日間、私も第1回の流域委員会のときに、輪中の中で生まれて育って今日まで井の中の蛙で、外のこともあまりわからず過ごしてきたということを発言させていただいたんですが、改めて新丸山ダムやらあるいはまた徳山等上流部も見せていただいて、途中のいろんなそれぞれの地域で悩み事があり、そして我慢するところは我慢して、ある程度増水したときには田畑等に遊水地としてやっておられるところもあるし、完全な輪中根性といいますか、隣は切れても自分のところの輪中だけは切れないようにと、安全を保ちたいというようなことでずっと来たんですが、これからはそんなことも言うておられません。

前にも申しましたように、上流の御嵩の柳川町長さんと12年間、下流、上流でやったこともあるんですけど、あの方も引退されまして、あの姿を見ますと、山の間を、木曽川の水系に柳川町長さんの御嵩町があって、それで水利権が木曽川にないというようなこと。我々は下流部において、木曽三川の恩恵を受けているんな生活をさせていただいておるといようなことで、改めて感謝を申し上げないかな、今まであんまり横着なことを言ったなというような反省の念もあるわけでございますが、これからもどうぞひとつ、この濃尾平野一帯、あるいはまたこの地が発展をいたしますように、皆さんの英知を絞って後世にいいものを残していただくような委員会結果が出ましたら私もありがたいなと。

ほんとうに私どもがこのような委員会に席を汚すということは、横着者でございますが、ひとつ今後ともよろしく願いいたしまして、感想とさせていただきます。

【松尾副委員長】 じゃ、光岡委員、願いいたします。

【光岡委員】 3日間にわたりましていろいろな施設を見せていただきまして、まことにありがとうございました。

まだ基本方針も示されていないわけでしょうけれども、整備計画という、その中の取捨選択というのをやっていかなければいけない作業になってこようかと思いますが、この辺の選択が、あまりにもたくさんの施設を見せていただきましたので、どういう順番でどういうふうによつたらいいのか、当然国のほうの予算の関係がついて回る話だろうと思

いますけれども、今回のご説明では予算的なお話は全然なかったわけですが、この辺をあわせたと説明の機会もまた設けていただけるとありがたいなというふうに感じました。

以上でございます。

【松尾副委員長】 どうもありがとうございました。

後はフリーディスカッションという形でいきたいと思いますが、事務局といたしますか、ご案内いただいた側から何か補足説明とか、あるいは、今日はちょっとこの見学会では案内できなかったけれども、こういったところについても機会があれば見てほしいとか、注目してほしいということがあればと思いますが。

【藤田委員】 今日はいろいろと最初にいただいたルートのやつで、福豊十六人衆という行けなかった場所ですが、何かこれについて補足。一番最初にいただいた資料で、ルートに入っていなかったんですけれども、ちょうど七里の渡の対岸を少し下がったところ、木曾川合流点のほうに福豊十六人衆と書いて。

【浅野調査官】 これは河川計画課長がガイドする予定だったんですけど。

【関沢木曾下所長】 木曾川の右岸ですね。長島町の国道23号の橋梁があるんですが、そのすぐ下のところに伊曾島神社というのがあって、その境内に福豊十六人衆という碑が建っています。江戸時代に亡失してしまった土地を復旧するということの要望を地域の方が出していて、それを幕府に直接直訴したと。この辺を通ったときに桑名で直訴したらしいんですけど、当然捕らえられてしまうんですけれども、一応審議した結果、それはやっただけだということになって、ある程度の土地の区域が復旧されたというようなことで、石碑でその当時直訴された方々とかの名前がずっとあって、その子孫の方が多分建てられたんだと思いますが、そういった場所があります。

【細見河川部長】 時代は享保の時代になります。それで、ここはおもしろいのは、伊勢神宮に行って、そのときに直訴して全く相手にされなくて、もう一回七里の渡を渡ったところで再度直訴して、それで上に取り上げられて、16人の決死隊の人たちが全部江戸にとりあえず連れていかれて評議されて、一応聞き届けられたということで、工事をしていいよという話になったんですが、幕府は当然お金がないということで、自分たちで調達しなさいという話になります。それで、7人ぐらいの商人にかけ合って、今のお金にしますと8億円ですね。そこで、金を貸し与えたのが名古屋の豪商ということで、ですから、名古屋にもそれぐらいの豪商が享保期に既にいたんだと。享保は完全にPFIの時代ですから、まさにそういう政策にのっとってお金が集まって、それまで亡失して復興できな

った堤防が復旧された。

だから、そこらも、次、またほんとうに8億円が回収できたのかどうかとか、どんな作物が植えられていたのかとか、大変個人的には経済学的な興味をそそる事例でございますということです。

【藤田委員】 どうもありがとうございます。

【松尾副委員長】 ほかに何かご質問。

【重網委員】 私、3回参加させていただきましたが、これは非常によかったと思うね。今まで会議を名古屋で主にやってあって、現地というのは時々行きましたけど、集中してやると、木曾川と長良川、揖斐川、3つの川の話と、それから歴史的なこともよくわかりますし、これから視察するときは集中的にやるんですな、3回くらい。だから、皆さん方にはほんとうに大変だと思うんですけど、やはり若い方々も歴史とか風土とかそういうものをわかっていただかないと、幾ら河川工学が優秀でも、僕はこれからの時代はだめだと思うな。そういう意味で、大変お世話になっているんですけど、皆さん方も勉強してもらいたいと、そう思います。

【関沢木曾下所長】 さっき地域の皆さんに周知という話があったんですが、ちょっと現場でもお見せしましたけれども、こういう地盤高のデータとかをしっかり提供しよう。実際、計算としては破堤させてみるとどのくらいの時間で水位がこんなに上がるよとかというのを出して、高潮のハザードマップをつくるための基礎資料としようということのために前段で地盤高をとっているんですが、ただ、国土地理院のメッシュデータとかですと平均値になっちゃっているんで、これは実際の田面の高さとか低いところを拾ってつくっていますけれども、まずこういった形で地域の方にその場所の危険性を知ってもらおうと。

今日も現場で見ていてわかったと思うんですけども、わかっている人は盛土をして家を建てていると。全然わかっていない人は全く、周りに盛土をしている家があるのにもかかわらず低いところにも住んでしまっているということで、多分わかっていない人は国土交通省というか我々の事務所をかなり信頼されていて、立派な堤防ができているからもう大丈夫だろうと思っていただいているのかなと思うんですけども、今日見ていただいたように砂の堤防ですので、あまり国土交通省を信頼しないでくださいという言い方をせざるを得ないのかなということでやってはいるといたしますが、ちょっと難しい面もあると思うんですけど。

【重網委員】 先ほど殉難の碑で頂いた破堤箇所と締切月日のマップがありましたな。

【関沢木曾下所長】 伊勢湾台風の。

【重網委員】 ええ。ああいうのなんかは、配ることはないけど、やはりあれでわかってもらわないといかんのじゃないかと思いますね。そういう意味で非常に関心を持ちましたね。

【関沢木曾下所長】 伊勢湾台風は今度50周年が来るので、50周年で何かやらなくちゃいけないなとは思っているんですけども、30周年とか40周年のときにもその当時の方の話聞いた本をつくったりとか写真集をつくったりとか、各町村ごとにもやっていますし、全体としてもやっているんですが、その50年のときには、もう一回50年ということで改めて大きなものをやらないといけないのかなと思っています。

【重網委員】 1959年のだったんだから、いつですか、50年は。

【関沢木曾下所長】 もうすぐです。再来年です。

【重網委員】 2009年、もうすぐじゃないの。あんまり話を聞きませんな、半世紀だという、何やるかというのは。

【関沢木曾下所長】 ちょっとこれから。ちょっとその前段で、先ほど渡したんですけど、この付近に50カ所ほどそういったものがありますので、私は一応それを全部回ってみたんですけども。

【藤田委員】 先ほどいただいたこの地図は、ある程度工事を進められている土地、ちょっと着手されたところもあるところなんですね。この木曾川の最下流部のところは、少し。

【関沢木曾下所長】 それは……。

【藤田委員】 変遷図です。

【関沢木曾下所長】 明治24年の測量で、木曾三川の明治改修というのは明治20年からということになっていますけれども、まだ多分用地買収とかをやっている段階で、ほとんど工事は入っていないです。

【藤田委員】 この部分は相当削られていますね、一番最下流が。えらく真っすぐした格好になっているのでと思って。こっちでいただいたものと比較すると、既にこの辺はカットされているなというのがわかったので。20年からって確かに、24年も大分あれですね。

【重網委員】 木曾川の水路なんか、みんな強制執行で取っちゃったんだからね、戦争前だけ。全くひどい強制収用ですよ。みんな北海道へ行かされちゃったんだからね。立

田村なんか特にそうですね。

【松尾副委員長】 堤防は砂でさくさくなところを見せていただいた。大体ほとんどずっと検査は終わっておられるんですか、一通り。

【関沢木曾下所長】 まず、今、全国的に浸透流解析をしようということで全部調査をかけています。それは、一定のピッチでずっととっていたりとか危なそうなところを選んでとったりしていますが、まだ全部できていませんので、それをやるということです。

それから、先ほどみたいな実際の断面を見るとよくわかるので、うちの事務所では、樋管の工事ですとか、そういう堤防を開削する工事のときには必ず調査を入れて、その図面をかいてというようなことをやっていますが、私に来てから2年間で見ているのは、単純に言うと、最近やったものでない限りはみんな砂ばかりです。ほかのものはない。例えば、庄内川とかだとしんがあるんでしょう。

【浅野調査官】 いえいえ、やっぱり少ないです。

【関沢木曾下所長】 でも、もとの堤防があるんじゃないの。

【浅野調査官】 いえいえ、もともとも庄内川の砂を積んだだけなので、それが何重にもなっているというのはわかりますけど、やっぱり同じです。

【関沢木曾下所長】 ですから、さっき図面を見せたように、地表から10メートルぐらいいは砂なので、そのものでやったとすれば砂でやったと。だから、書いてあるものを見ると、やっぱりヨシ根土とか、そういうので保護したとかと書いてある。多分、表面はそういったもので押さえてやっている部分も昔はあったと思いますけれども。

あと、もうちょっと言うと、うちの堤防はほとんどが明治改修のときに大幅にやっていますので、最近のものですね。しかも、短い期間に一気にやっていますので。

【松尾副委員長】 ほかにはいかがでしょうか。特になければ。

【浅野調査官】 大体そんなところでよろしいですか。

【松尾副委員長】 よろしいですか。何か、あとまた見学……。

【平野委員】 30分ぐらいでやっていただくとちょうどええかげんなんですよ。宝暦治水の絵。

【松尾副委員長】 じゃ、そうしましたら、今日は、現地視察会の意見、感想というのはこれで終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

了